



# 社会につぎの安心を。

——人と機械のベストマッチング——

## 〈第九話〉省エネルギーという課題

電力も「見える化」の時代へ

京都議定書が発効された京都市で、温暖化防止に向けたひとつの試みがスタートしています。

二〇〇六年九月、京都市教育委員会は、市立の小中高등학교と幼稚園の全二八三施設に、オムロンが開発した電力遠隔監視システムを導入。省エネによる温暖化防止に取り組んでいます。

このシステムには、リアルタイムの電力使用量がパソコンや携帯電話で確認できる機能があります。目に見えない電気の流れが、「見える化」されることで、省エネ対策を具体化し、確実な成果が期待できます。京都市教育委員会では、日々の電力情報を環境教育に活用することも視野に入れ、運用を進めています。もちろんこのシステムは、省エネという課題に向き合う企業からも注目を集めています。

環境貢献と経営強化を電力遠隔監視システムは、センシング&コントロール技術と無線ネットワーク技術を核とし

て構築されています。

施設の電力メーターにセンサーを設置し、携帯電話の通信網を使って専用のサーバーにデータを蓄積。インターネットを通じてグラフや表に加工された電力使用量がいつでもダウンロードでき、事前に設定した電力量に近づくと、警報をメールで発信する機能も備わっています。無線ネットワークを使用したことで、配線工事やシステム構築が不要になり、導入や維持管理の低コスト化も実現することができました。すでに製造業や流通業を中心に多くの企業に採用され、コンビニエーションでの実証実験では、一〇%から二四%の省エネも達成しています。環境への貢献と経営コストの削減、そんなソリューションを、このシステムは企業にもたらします。

今後は電力使用量を情報として提供することに加えて、省エネ対策をより具体的にサポートするノウハウの提供も可能になるかもしれません。無駄なく電

力を利用するための司令塔へ。

それが電力遠隔監視システムに描かれた未来です。

社会と共に存在する企業

環境と経営の両立は、企業に求められる重要な課題です。例えば省エネの徹底は、社会的信頼と、さらなる環境貢献に向かう利益を企業にもたらします。この健全な循環を支えるためには、新しい技術が必要です。オムロンの視線は、たえずその開発に向けられています。

「企業は社会の公器である」

それはオムロンを根底から支えつづけてきた企業理念です。事業を通じてよりよい社会づくりに貢献する企業であること。安心、安全、環境、健康の社会ニーズをいち早く発掘し、私たちの強みであるセンシング&コントロール技術で、常に新しい価値を創造してゆく企業であること。人と機械が理想的に調和した最適化社会の実現に向けて、オムロンはこれからもオムロンでありつづけます。

OMRON

Sensing tomorrow™